

## ◆カブトムシの記憶きおく

わたしは奈良県生駒市なならいこまで育った。家の周りは、大阪のベッドタウンとして開発が進んでいたが、丘陵部きやうりゆうぶには雑木林や水田が少ないながらも残されていた。小学生の頃こころ、時間を見つけては家の周りで昆虫こんちゆうを採集していた。これは今も変わっていないが、一センチに満たないような小さくて地味な昆虫こんちゆうよりも、派手で大きくて見栄えのよい種類が好きだった。なかでもハンミョウがお気に入りだった。自宅から歩いて十五分くらいのところにある造成地には、たくさんのおハンミョウがいつでも見られ、捕虫網ほちゆうあみで追いかけた。ハンミョウは手でつかむと何ともいえない独特の甘あまいにおいを発した。

また、当時わたしが住んでいたマンションの一階のラウンジには、夏の夕方になると毎日のようにヤンマの仲間が迷いこんできた。ほとんどが小型の種であるカトリヤンマだったが、青い目をした大型のヤンマもその中に混じることがあった。ヤンマの美しさに魅了みりょうされ、マンションのヤンマをチェックするのが楽しい日課の一つだった。

このマンションはどうやら昆虫こんちゆうの通り道になっていたようで、夏になるとマンションの廊下ろうかに

